

## 日本図書館研究会 2021年度決算報告・2022年度事業計画・予算案

### 2022年度事業計画等の 提案にあたって

理事長 原田 隆史

2022年3月ロシア軍によるウクライナへの侵攻。この誰もが予想しなかった暴挙は同時に「情報の時代」という少し言い古された言葉を実感させることにもなりました。戦いの帰趨や戦後の展開などは現時点では全く不明ですが、各種の報道を見ていると正確で多様な情報を得る環境の重要性を感じた人は多いでしょう。

ここでいう「情報の重要性」とは、情報が戦局の有利不利に直結するという意味ではなく(もちろん情報情報が戦局に大きく寄与することも確かですが)、自立した人々の判断ができるかどうかという観点についてです。ロシア国内での情報統制やプロパガンダに終始するテレビニュースなどの影響で、第三次世界大戦に突き進むかのような行動をとる指導者であってもロシア国内で支持する人が多いという報道から、偏った情報しか提供されないことの恐ろしさを再認識させられます。このような状況が今回の地域の特例事例ではなく、どの国でも起こりうることを考えれば自明ともいえます。

現代日本は民主主義国家であり自由な情報アクセスを許される国であること、主権者たる国民が多様な情報を元に自己統治力をもって各自の意見を表明する形で為政者を選択していることは確かでしょう。しかし、そのような環境でも忖度や同調圧力など不自然なことが皆無とはいえないことも常に意識・検証する必要があると思われます。多様な情報への自由なアクセスこそ民主主義の根幹はあります。

1993年にノーベル文学賞を受賞したトニ・モリスン(Toni Morrison)の有名な言葉に「図書館は民

主主義の柱である」があります。また、2018年に公開された映画 *The Public*(日本でのタイトル「パブリック 図書館の奇跡」)での「公共図書館は民主主義の最後の砦である」という台詞も印象的です。このような図書館と民主主義を結ぶ言説は他にも多数見られます。図書館と民主主義を考えると、その意味するところは多様で、格差社会の中で行き場を失った人々に対するサービス展開を念頭に述べられることもあれば、市民国民の知のインフラとしての存在として述べられることもあります。さまざまな観点から図書館と民主主義について考えることはできると思いますが、図書館が経済的な制約その他を越えて各種の情報へのアクセスを保障する拠点であり、それが民主主義の基本であるという考え方はその根底のひとつでしょう。

これからの社会において、情報の重要性はさらに大きくなっていくと考えられます。また、検閲や少数意見の封殺といった情報の遮断だけではなく、SNSを通じたディスインフォメーションの流布など情報過多の環境を作り出すことで情報操作が行われることも考えられます。為政者に都合の悪い情報や少数意見も含めた多様な情報を適切な形で提供することなど、民主主義の基盤としての図書館への期待は今後も高いと思われます。「図書館は成長する有機体」です。日常の活動の実際と同時に、その時代に応じた図書館の役割や意義についても議論を続けていきたいと思っています。



閑話休題。前段の大きく振りかぶった文章とは大きく変わって日本図書館研究会の活動についてです。毎年同じような話を書いているのが残念ですが、2021年度も日本図書館研究会の財政は厳しい状況が続いています。個人会員数も2021年度の入会者が17名であるのに対して退会者数は30名に達するなど会員数も単調減少に近い状況にあります。コロナ禍という事情だけではなく経費節減や遠方からの参加者への利便性向上を目指して積極的にオンライン開催の環境を充実させるなど、従来からの活動に加えて可能な限りの努力も続けて行く所存です。また、会合の自粛呼びかけが要請されるなど活動に様々な制

約がかかる状況ではありますが、若手会員による座談会を開催して自由に意見を出していただくなど、多くの皆様に興味を持っていただけるような新たな活動の展開も検討し続けたいと思います。また、ホームページでの情報発信もより活発に行いたいと考えています。

以下に掲載する事務局長および各委員長、担当からの提案説明、事業計画、予算案などの内容を検討していただき、本会の実質的な最高議決機関である評議員会の審議に向けて、会員の皆様からの多くのご意見、ご提言を期待しております。2021年10月に創立75周年記念行事を行わせていただいたように、日本図書館研究会は新たな四半世紀の活動を開始します。今後とも会員の皆様方のご指導とご協力をお願い申し上げます。

(はらだ たかし 同志社大学)

## 事業計画・予算案の提案説明

事務局長 松井 純子

2021年は、日図研が創立75周年を迎えた記念すべき年でした。その記念式典・図書館学セミナーを、5年の準備期間を経て、2021年10月30日に開催しました。しかし新型コロナ第5波の感染拡大により、生憎のオンライン開催となってしまいました。25年ぶりの大イベントでしたが、会員の皆さまと直接顔を合わせて言葉を交わすことができず、本当に残念でした。とはいえ、幾多の会員の皆さまに長年にわたるご支援をいただき、当日は約170名もの方々にご参加いただきまして、心から感謝申し上げます。

### 1. 2021年度決算

2021年度の日図研の活動は、社会全般がそうであったように、コロナ禍でほとんどの集会・行事がオンライン開催となり、制約の多いものでした。しかし、それが結果的に支出抑制につながりました。

一般会計の《収入》は、「会費」収入が予算を約

60万円下回りました。原因は会員数の減少ではなく、『界』73巻6号の発行が遅れたため、新年度会費の前納件数が昨年同時期と比較して110件ほど少なくなったことです。また、団体会員数が年々減少しており、日図研を団体会員として支えていただくことの厳しさを痛感しています。『界』売上げは予算を上回り、他の費目はほぼ予算どおりでしたが、「雑収入」では事務所使用料がコロナ禍のため21年度も得られませんでした。75周年記念事業実施のため、**第3特会**から220万円を繰り入れて、《収入》全体の決算額は当初予算よりも約50万円減となりました。

次に**一般会計**の《支出》です。コロナ禍で、各種委員会と理事会、評議員会はオンライン開催となり、「会合費」と「交通費」が大きく減少しました。「研究助成費」でも、上述のように75周年記念式典・図書館学セミナーがオンライン開催となったのみならず、研究大会もオンライン、研究例会・特別研究例会もほぼオンラインでした。そのため関係者の交通・宿泊費が少なくなり、またブロックセミナーが開催されなかったため、決算額が当初予算を大幅に下回りました。なお「研究調査費」では、研究グループ助成の残金の戻入が約10万円生じました。これは、助成を受けた11グループのうち5グループが、コロナ禍で2020年度助成金を予定通り執行できず、21年度になって戻入されたものです。

「雑誌刊行費」は「75周年記念特集号」（『界』73巻4号）の刊行等、頁数と予算を大幅に増やして予定どおりの執行に努めました。しかし「75周年記念特集号」に掲載予定だった「年表」約60頁が73巻6号に掲載となり、21年度予算での精算が間に合わなかったため、その分支出が少なくなっています。

「国際交流費」は、やはりコロナ禍のため、国内開催の国際図書館学セミナーが2022年度に再延期され、国際交流事業は事実上実施されませんでした。また「組織強化費」も執行がありませんが、取り組み自体は、WebやSNSを通じて随時会員への働きかけを行いました。「消耗品費」では『界』用OPP封筒の在庫が十分あったので購入を見送りました。他の費目は、例年と同程度の支出でした。

結果、**一般会計**では284万円の繰越となりました。コロナ禍でも活動の縮小や停滞を招かぬよう努力しましたが、影響があったことは否めません。

**特別会計**に移ります。《収入》すなわち刊行物の売り上げの合計は、予算を約109万円下回りました。

これは、新たに刊行を予定していた『日本図書館研究会の75年』（『界』75周年記念号の単行本）が未刊であることと、『情報資源組織法』の売り上げが予想よりも低調だったためです。

**特別会計の《支出》**は、『日本図書館研究会の75年』が未刊のため「出版編集費」「出版印刷費」のいずれも執行がありませんでした。その結果、《支出》は「通信費」のみとなり、《収入》のほとんどが22年度に繰り越されました。

**第2特別会計（図書館研究奨励賞基金）**は、「利息」収入が予算を上回りました。《支出》の「奨励賞副賞」は、佳作のため半額となっています。

**第3特別会計（75周年記念事業積立）の《収入》**は、多額の繰越金と寄附金とで約300万円を積み立てることができました。これを元に75周年記念事業（75周年記念誌の発行、75周年記念式典・図書館学セミナー、会員アンケート、若手座談会）を実施し、《支出》の合計は約240万円となりました。やむをえずオンライン開催となった記念式典・図書館学セミナーは、「会合費」「交通費」の支出が少なくなりました。また、**一般会計**に220万円を繰り出して『界』75周年記念号と図書館学セミナーの費用に充てました。一連の記念事業の終了により、2021年度をもって**第3特会**を閉じます。残金58.8万円は**一般会計**に移し、22年度に支出する「年表」（『界』73巻6号掲載）部分の経費（57頁で56.4万円）に充てることとなります。

なお、これまでに多くの会員から総額193.3万円の寄附を頂戴しました。厚くお礼申し上げます。

21年度は、コロナ禍にあっても一般会計、特別会計とも大過なく予算を執行し、繰越金も確保できました。しかし、今後いかに活動を維持していくか、また新たな会員を獲得し、会員の減少を食い止めることができるか、新年度の活動が問われています。

## 2. 2022年度事業計画(案)

今は第6波がようやく落ち着いたところですが、2022年度も、コロナ禍を前提に事業計画を立てています。新たな試みとして「オンライン交流会」を始めます。セミナーではなく、少人数の、文字どおりオンラインでの交流と意見交換を目的とした会です。第1回は5月16日(月)、開催の継続を期待します。

研究例会も当面はオンライン開催です。図書館学セミナー、研究大会、ブロックセミナーは状況次第

で集会形式での実施も検討します。

国際図書館学セミナーは、上海図書館の希望もあり、2023年度に3度目の延期となります。これに代わる国際交流事業として、上海市図書館学会発行の『図書館雑誌』から論文の翻訳掲載を検討中です。

出版事業では、新たに『インタビュー記録 塩見昇の学校図書館論』の刊行を予定しています。刊行は2023年4月頃になる見込みです。

## 3. 2022年度予算案

できるだけ平常に近い活動を行えるよう、予算案は従来と同様の金額を措置しています。

**一般会計の《収入》**のうち「会費」は、個人会員の2022年度分の前納件数が少なかったため、少し上乗せして700件で予算化しました。逆に、団体会員は310件に減りました。「広告料」「雑収入」「利息」は変更ありませんが、2023-2024年度役員選挙のための費用40万円を特会から繰り入れ、さらに閉会した**第3特会**の残金も繰り入れます。

**一般会計の《支出》**は、コロナ禍で支出が大きく減少した「会合費」「交通費」の実態に合わせての削減は見送りました。「研究助成費」も、75周年記念事業の増額分を除くに留めました。「雑誌刊行費」は、『界』73巻6号掲載の「年表」分を上乗せした以外は、通常の頁数に戻して予算化しています。

他方、「研究調査費」は、コロナ禍で活動を縮小または休止した研究グループ活動を活性化したいと考え、2022年度に限定して増額または新規助成の申請を募集しました。その結果、5グループから増額申請があり、当初予算に10万円を上乗せしました。

「国際交流費」は、国際セミナーが23年度に延期されたため、予算額は21年度のままです。「事務局費」は、HP更新費用の支払いが終わった分を減額しました。

次に**特別会計**です。《収入》では『日本図書館研究会の75年』（仮題）を2022年6月末頃に刊行・発売するとともに、『情報資源組織法』の売り上げ増に期待しています。《支出》では『日本図書館研究会の75年』『塩見昇の学校図書館論』の費用として、225万円を「出版印刷費」に計上しました。

**第2特別会計**は、《収入》《支出》とも2021年度と同様の予算編成です。

以上、22年度も多くの行事でオンライン開催が想定されています。対面での交流が望ましいことはも

もちろんですが、オンラインは開催地／居住地に関わらず行事・イベントに参加できるという利点があります。仮にコロナ禍が収束したとしても、対面のみでの開催には戻れないという声も聞こえます。全国の図書館員と図書館学研究者がイベント等を通じて交流し、協力しあえることが日図研の大きな特徴ですが、対面とオンライン双方の利点を活かしつつ交流できる機会を提供していきたいと思います。

\* \* \* \* \*

ここに掲げた決算報告、事業計画・予算案の審議と承認は評議員会の役割ですが、会員の皆さんの声をしてできるだけ反映させたいと思います。メールやFAX等でぜひご意見をお寄せください。当会の運営や行事についての感想・要望等でも結構です。

送付先：事務局 nittoken@ray.ocn.ne.jp

送付期限：5月30日(月) 必着

※2022年度評議員会：6月5日(日)オンライン開催  
(まつい じゅんこ 大阪芸術大学)

## 期待に応える 『図書館界』を目指して

編集委員長 前川 敦子

『図書館界』(以下『界』)編集委員長を拝命して6年目になりました。改めて気持ちを引き締め、会員の皆さまの期待に応え、研究会の活性化につながる誌面作りに取り組んでいきたいと考えています。

以下、本年度の計画をご紹介します。

### 1. 《論文》《研究ノート》《現場からの提言》

『界』は、学術雑誌として図書館情報学の新しい知見の発表の場、かつ、実践を重視し現場に資する活動や研究の発表の場、という二つの側面を備えています。いずれも会員の皆さまからの投稿に支えられています。

現在、査読を行う論文の枠として《論文》《研究ノート》《現場からの提言》の3つがあり、それぞれの定義を「『図書館界』原稿種別の定義」に整理しています。これらの枠は、学術的な研究活動と図

書館現場から生まれる実践研究とともに重視する本会の特徴をふまえ、様々な立場の書き手の方に多様な投稿をいただけるよう設定しました。敷居が高い、と言われることもある『界』ですが、いろいろな形の投稿が可能です。ぜひご検討ください。

### 2. 《書評・新刊紹介》・《エコー》

書評や新刊紹介は会員の皆さまへの重要な情報提供であり、誌面の幅を広げ『界』の魅力を増すものとして、今年度も積極的に掲載します。執筆を依頼させていただいた際にはぜひご協力ください。投稿も歓迎しています。

会員の皆さまの声をお伝えいただく手段として《エコー》があります。情報提供や会員間の双方向な意見交換の場としてご活用ください。短いものも歓迎です。皆さまの声を誌面にお届けください。

### 3. 特集・連載

今年度も2号(7月号)には例年どおり、第63回研究大会特集を予定しています。昨年度に引き続きオンライン開催となりましたが、シンポジウム「コロナ禍における図書館パート2」では活発な議論が展開されました。誌面での再現を楽しみにお待ちください。

「解説 HOT TOPICS」は3年目を迎えました。今年度は研究大会のフォローアップも意識して「コロナ禍と図書館サービス(仮)」をテーマに企画中です。そのほかにも時機に応じた記事を企画したいと考えています。

### 4. 『界』73巻の報告

昨年度の『界』は以下のような内容でした。

- ・創立75周年記念特集 日本図書館研究会の75年》75年史概要4本、回想(研究グループ)16本、(個人)24本、資料編、年表
- ・75周年記念会員アンケート報告
- ・75周年記念若手座談会報告(全2回)
- ・《特集：創立75周年記念式典・2021年度図書館学セミナー》概要、講演2本、鼎談
- ・《特集：第62回研究大会》グループ研究発表6本、シンポジスト発表4本、討議
- ・《論文》1本      ・《研究ノート》3本
- ・《解説・HOT TOPICS》1テーマ3本
- ・《書評》6本      ・《新刊紹介》4本

創立75周年を記念した原稿を多数頂戴し、日図研の歴史を振り返る貴重な記録を残すことができました。他方、投稿論文(論文・研究ノート)が計4本

と近年になく少なくなってしまい、また残念ながら《現場からの提言》《エコー》とも掲載できませんでした。

投稿いただいた皆さま、また執筆依頼に快く応じてくださった皆さまに心よりお礼申し上げます。今年度は、より多くの論文・記事を掲載できるよう努めてまいります。

昨年度実施された会員アンケートと座談会では、『界』への多くの期待・要望を寄せていただき、身の引き締まる思いをしました。会員の皆さまの期待に応えられるよう、編集委員一同、引き続き『界』の内容充実に目指してまいります。よろしくご協力ください。

(まえかわ あつこ 富山大学附属図書館)

## 研究委員会の主な事業について

研究委員長 日置 将之

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続き、研究例会はほとんどがオンライン開催となりました。また、研究大会も当初は会場とオンラインを併用したハイブリッド開催を予定していましたが、感染状況の悪化によりオンラインのみでの開催となりました。今後も新型コロナウイルス感染症の影響は続くと考えられるため、引き続きその時々状況に応じた開催方法を検討しながら研究事業を実施したいと考えております。

以下、会員間の研究成果の発表・交流・学習等の場として、研究委員会が今年度担当する主な事業をご紹介します。

### 1. 研究大会の開催

2022年度(第64回)研究大会は、2023年2月～3月頃に2日間の日程で開催する予定です。例年と同様、1日目は個人会員と研究グループの研究発表を行い、2日目のシンポジウムは図書館に関する重要なテーマを取りあげて論議を行いたいと考えていま

す。開催方法については、状況に応じて会場とオンラインのどちらにするかを判断します。

大会のお知らせは、本誌74巻3号(9月)に個人発表等の募集を、4号(11月)に大会予告を、5号(1月)に正式な大会案内を掲載する予定です。また、本会のウェブサイトやツイッターアカウントでも随時ご案内します。

### 2. 研究例会・特別研究例会の開催

日常的な研究・活動報告の場として年間7回程度開催しています。会員・非会員を問わず参加可能とし、広く開かれた形での開催です。発表に関心があるの会員はぜひご連絡ください。なお研究グループは、研究成果の公開を、研究大会のほか、研究例会での発表で行うことも可能です。

特別研究例会は、評議員会の日程にあわせて午前中に開催します。本年度は、本号 p. 52 に記載のとおり、6月5日(日)に大城善盛氏(元同志社大学文学部・社会学部教授)をお招きしてオンラインで開催する予定です。

### 3. 図書館学セミナーについて

図書館学セミナーは、時流に沿った関心の高いテーマを設定して討議する場として開催しています。今年度は、国際図書館学セミナーの開催を予定していたため、図書館学セミナーの開催年ではありませんでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で国際図書館学セミナーの開催が延期される見込みとなっていますので、10月か11月に1日の日程で図書館学セミナーを開催する方向で調整中です。開催する場合は、74巻3号(9月)にて詳細をご案内します。

### 4. グループ研究への助成

会員の皆様は、地域又は研究テーマごとに研究グループを組織することができます。また、会員7名以上から構成される研究グループについては、研究委員会で審査し、理事会での承認を得た上で、原則として年3万円を2年間にわたり助成しています。助成を受けた研究グループには、研究大会や研究例会、本誌誌上などでの研究成果の報告をお願いしています。研究グループの参加は全ての会員に開かれていますので、既存研究グループへの参加や新たな研究グループの結成については、各研究グループの

連絡先や研究委員会にご相談ください。

## 5. お願い

研究大会・例会等のテーマや発表者についてご希望がありましたら、研究委員会までお知らせください。また、研究大会・例会等の講師のお願い・会場提供のご相談をさせていただくことがありますので、よろしくお願ひいたします。

研究活動の継続・伸展には会員の皆様のご指導が必要不可欠です。引き続きご協力いただけると幸いです。

(ひおき まさゆき 大阪府立中之島図書館)

## 図書館研究奨励賞

若手・中堅の書き手へ

図書館研究奨励賞選考委員会

委員長 **前川 和子**

担当理事 **常世田 良**

昨年日本図書館研究会は75周年を迎え、その歴史に一区切りをつけたといえます。私たち会員は日本図書館研究会を見直す機会を得たのではないのでしょうか。その中で日本図書館研究会の機関誌『図書館界』は、図書館活動(サービス)を考え実行する図書館司書、司書教諭、図書館職員、図書館研究者など(以後、図書館関係者)が、各々の「著作」(論文、現場からの提言、研究ノート、エコー、書評など)を投稿し、全会員と共有する場なのだ、その大切さを再認識したことでしょう。日本図書館研究会のユニークさは、たくさんの自主的な研究会の集まりです。個人の図書館関係者は、研究会のグループ研究の輪の中で、さらに磨かれ刺激を受け、伸び、新しい著作物を生産することができます。

当選考委員会は、それらの「著作」の中でも、査読を経て掲載された「論文」、「現場からの提言」、「研究ノート」の中の特に若手・中堅の書き手に注目し、その「著作」が図書館界で新鮮な伸びしろと刺激を与えているかを見出す役割を持ちたいと考えています。当該研究分野の発展性に寄与できる可能性を持つものを、会員の皆さまと共に選び、賞を贈るとい

う役目を担っています。

問題意識をもち、日々の図書館活動に邁進している方々は、往々にして時間に追われている方々ではありますが、何とか著作に勤しんで頂きたいのです。特に若手の方々に期待します。

激しく変化する社会であるとともに、2020・2021年はCOVID-19の拡大と、それが中々収束できない中で、図書館のサービスの在り方に見直しが必要だという事実を突き付けられたのではないのでしょうか。利用者を支え、また利用者に支えられる図書館界に生きる図書館関係者である会員の皆さまからの『図書館界』への投稿の増加を望みます。「論文」「研究ノート」「現場からの提言」以外の投稿でも勿論結構です。これら以外の投稿が増えれば、またそれにふさわしい賞ができるかも知れません。

さて、上述の通り図書館研究奨励賞は、『図書館界』に掲載された「論文」と「研究ノート」、「現場からの提言」の中から優秀作に贈られます。この賞は、故森耕一理事長の基金によって1990年から始まりました。

授賞式は、毎年開催される研究大会の第1日目で、表彰状と副賞10万円(佳作の場合、5万円)が当会理事長から授与されます。

今年度(2022年度)の対象期間は、2020年11月号(72巻4号)から2022年9月号(74巻3号)までの『図書館界』掲載が対象となります(本賞の詳細につきましては、本研究会ホームページ「図書館研究奨励賞」をご参照ください)。

そして、この賞を受賞された方に、未来の研究や職場での実践に後押しができることになれば、こんな嬉しいことはありません。

当選考委員会は5名で構成されます。メンバーは夏に理事会で承認を受け、その後選考が始まります。同時に、会員の皆さまにも今年の秋に誌上で呼びかけをします。第4号(11月号)に「日本図書館研究会図書館研究奨励賞選考にご参加ください」の見出しで、会員の皆さまの選考への参加(ご推薦)を募集します。「推薦」を「自薦または第2以下の共著者による推薦を含む」と広げているのは、ユニークなところですが、もちろん「自薦」は、当委員会内の秘匿にさせていただきます。締め切りは12月の中旬を予定しています。日頃から機関誌『図書館界』をお読みになっている会員の皆さまのご推薦を頂き、より

May 2022

良い選考が行われることを願っています。

良き書き手に図書館研究奨励賞を贈り、皆様とともに授賞者を讃えることを楽しみにしたいと思います。

(まえかわ かずこ 桃山学院大学特別研究員)

(とこよだ りょう 前立命館大学)

ブロックセミナー開催のお誘い

事務局 E-mail : nittoken@ray.ocn.ne.jp

(いしかわ たかし 十文字学園女子大学)

(いのうえ まさひこ 関西学院大学図書館)

E-mail : inoue@kwansei.ac.jp)

(かわさき ちか 大阪女学院大学・短期大学)

(たにあい かよこ エル・ライブラリー)

(大阪産業労働資料館)

## ブロックセミナー 開催のお誘い

ブロックセミナー担当

石川 敬史・井上 昌彦  
川崎 千加・谷合佳代子

各地域で気軽に足を運んで、地元で図書館をテーマに議論できる場を設けたい。最新の研究成果に接することができる講演会を開催したい。地域の図書館活動の実践や、地域の図書館員の研究成果を発表する機会を設けたい。地域の図書館員の交流の場を設けたい— ブロックセミナーは、こうした要望に応えるために、各ブロックの会員の申し出によって開催されます。開催にかかわる経費は、原則として全額を日本図書館研究会が負担します。

COVID-19の影響により集合での研修や交流の機会が減少して2年以上となります。この間オンラインでの研究会やセミナーも開催されるようになりましたが、2021年度のブロックセミナーの申込はありませんでした。それでも研修や人との繋がりは図書館員にとって大切なものです。まだしばらく感染予防をしながらの開催となると思いますが、積極的にブロックセミナーへの希望が寄せられるよう期待しています。

図書館を取り巻く状況が厳しく、会員数も減少している中ですが、各地域で図書館に関わる人々との交流の場、図書館について考え、語り合う場が持たれ、日本図書館研究会の活動が活発になることを願っています。

企画については担当理事の石川・井上・川崎・谷合にご相談いただくか、事務局あてご連絡ください。

連絡先：日本図書館研究会事務局

電話：06-6225-2530(月・木曜13時～17時)

## 留学生への『図書館界』 無料頒布について

本会では、図書館情報学を学ぶ大学院留学生に『図書館界』の無料頒布を行っています。国際交流の一環として、図書館研究や図書館の理解に役立ててもらいたいという趣旨です。

2022年度も下記の要領で実施しますので、該当者は、大学院の指導教員を通じて、本会事務局までお申し込み下さい。

記

- 1) 対象者は、日本で図書館情報学を学ぶ大学院留学生で、向こう1年間の在学や研究が確定している者。
- 2) 申込は本会の会員である指導教員による。
- 3) 『図書館界』各号を当該留学生に直送する。今年度は『界』74巻1～6号(2022年5月号～2023年3月号)まで。

※所定の申込用紙や詳細については、本会事務局までお問い合わせ下さい。

E-mail : nittoken@ray.ocn.ne.jp

## 2021年度一般会計決算報告

## 《収 入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	2,736,173	2,736,173	
会 費	6,050,000	5,460,000	個人5,000円×554人=277万円 (20年:36, 21年:460, 22年:57, 23年:1) 学生3,000円×4人=1.2万円 団体8,500円×315=267.8万円 (19年:1, 20年:87, 21年:225, 22年:2)
『界』売上げ	1,250,000	1,374,600	6,800円×191=129.88万円 バックナンバー 抜き刷り代
広 告 料	220,000	220,000	
雑 収 入	5,000	3,002	コピー代 カンパ
利 息	10,000	9,733	
第3特別会計から繰入れ	2,200,000	2,200,000	『界』75周年記念号 図書館学セミナー
合 計	12,471,173	12,003,508	▲467,665円

## 《支 出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
会 合 費	340,000	66,001	研究委員会 編集委員会
交 通 費	660,000	28,500	理事会 評議員会 会計監査
研 究 調 査 費	370,000	236,229	原稿料 研究グループ助成
研 究 助 成 費	1,000,000	233,597	研究大会・セミナー・研究例会・特 別研究例会 Zoom アカウント
雑 誌 刊 行 費	6,552,000	5,823,455	72巻6号～73巻5号 J-STAGE 搭載費
組 織 強 化 費	50,000	0	
印 刷 費	50,000	50,358	『界』送り状 封筒印刷 ほか
国 際 交 流 費	30,000	0	2020年度国際図書館学セミナーを 2022年度に再延期
役 員 選 挙 費	0	0	
通 信 費	750,000	613,674	『界』郵送費 電話代 切手・レター バック代 振込手数料
払 込 料 負 担 費	10,000	3,892	業者払込料負担金 郵便振替
消 耗 品 費	100,000	19,867	プリンター用ラベル プリンター用 インクボトル コピー用紙 ほか
事 務 局 費	2,300,000	2,078,413	人件費 事務所借用料 光熱水費 サーバーレンタル料 HP 更新料
第3特別会計へ繰出し	4,168	4,168	2020年度雑収入
予 備 費	255,005	0	
小 計	12,471,173	9,158,154	
次年度への繰越金	0	2,845,354	
合 計	12,471,173	12,003,508	

## 2021年度特別会計決算報告

## 《収入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	16,700,008	16,700,008	
図書館・図書館学の発展 (2010年代を中心に)	45,000	83,457	22冊 完売
情報資源組織法	900,000	591,280	384冊
図書館資料の目録と分類 (増訂第5版)	600,000	544,755	615冊
日本図書館学の奔流	20,000	4,074	1冊
文化の朝は移動 図書館ひかりから	30,000	22,880	6冊
日本図書館研究会の75年(仮題)	750,000	0	未刊
そ の 他	20,000	23,852	読書の自由と図書館4 / 日本図書館 研究会の50年1 / 構造的転換期にあ る図書館1 / 公立図書館の役割を考 える1 / 文化の使徒1
合 計	19,065,008	17,970,306	▲1,094,702円

\*利息は一般会計に一括して計上されている

## 《支出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
出版編集会合費	20,000	0	
出版編集費	50,000	0	
出版印刷費	1,500,000	0	
通 信 費	200,000	122,695	刊行物送料 Amazon 年会費
一般会計へ繰出し	0	0	
予 備 費	17,295,008	0	
小 計	19,065,008	122,695	
次年度への繰越金	0	17,847,611	
合 計	19,065,008	17,970,306	

## 2021年度第2特別会計決算報告

## 【図書館研究奨励賞基金】

## 《収入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
備 考	10,539,619	10,539,619	基金1,000万円
前年度よりの繰越金	20,000	28,752	定期預金満期更新
合 計	10,559,619	10,568,371	

## 《支出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
奨 励 賞 副 賞	100,000	50,000	佳作 能勢美紀氏
事 務 費	5,000	3,124	
予 備 費	10,454,619	0	
小 計	10,559,619	53,124	
次年度への繰越金	0	10,515,247	
合 計	10,559,619	10,568,371	

## 2021年度第3特別会計決算報告

## 【75周年記念事業積立】

## 〈収入〉

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	2,739,344	2,739,344	
一般会計より繰入れ	4,168	4,168	2020年度雑収入
寄 附 金	100,000	239,000	20件
利 息	5,000	4,897	
合 計	2,848,512	2,987,409	

## 〈支出〉

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
会 合 費	100,000	32,581	座談会謝礼 記念式典弁当代
交 通 費	150,000	73,060	記念式典交通費
調 査 費	120,000	89,835	座談会テープ起こし
事 務 局 費	100,000	3,708	宅配便 ほか
一般会計へ繰出し	2,200,000	2,200,000	『界』75周年記念号 図書館学セミナー
予 備 費	178,512	0	
合 計	2,848,512	2,399,184	
残 金	0	588,225	2022年度一般会計に移して第3特会を閉じる

## 第3特別会計(75周年記念事業)決算報告 2016～2021年度

## 〈収入〉

項 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合 計	備 考
前年度よりの繰越金		1,049,252	2,296,128	2,405,458	2,572,499	2,739,344		
一般会計より繰入れ	749,252	55,113	109,319	59,885	68,101	4,168	1,045,838	
寄 附 金	300,000	1,200,000	0	101,000	93,000	239,000	1,933,000	
( 件 数 )	1	3	0	19	10	20	53件	
利 息	0	0	11	6,156	5,744	4,897	16,808	
合 計	1,049,252	2,304,365	2,405,458	2,572,499	2,739,344	2,987,409	2,995,646	

## 〈支出〉

項 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合 計	備 考
会 合 費	0	0	0	0	0	32,581	32,581	座談会謝礼 記念式典弁当代
交 通 費	0	0	0	0	0	73,060	73,060	記念式典交通費
調 査 費	0	0	0	0	0	89,835	89,835	座談会テープ起こし
事 務 局 費	0	0	0	0	0	3,708	3,708	宅配便 ほか
一般会計へ繰出し						2,200,000	2,200,000	『界』75周年記念号 図書館学セミナー
予 備 費	0	8,237	0	0	0	0	8,237	
小 計	0	8,237	0	0	0	2,399,184	2,407,421	
次年度への繰越金 (2021年度のみ残金)	1,049,252	2,296,128	2,405,458	2,572,499	2,739,344	*588,225	*588,225	残金は一般会計に移して 第3特会を閉じる (2022年度一般会計の 収入に繰り入れる)
合 計	1,049,252	2,304,365	2,405,458	2,572,499	2,739,344	2,987,409	2,995,646	

\*残金は、『界』73巻6号掲載の「年表」の印刷経費(57頁56.4万円)に充てられます。

## 2021年度監査報告

2022年3月28日、日本図書館研究会事務局において会計監査を実施しました。その結果について報告します。

- 1) 支出に関する帳票・領収書類及び、収入に関する帳票類は、よく整理され、かつ記載事項に誤りがなく、会計事務は適正であると認める。
- 2) 会員の漸減傾向が続いており、会費収入の大幅な増加も見込めない状況であるが、収入、支出とも、理事会、各委員会など関係者の努力により、おおむね妥当な執行に努めていると認められる。
- 3) 新型コロナの蔓延が続く中で、研究会の各種活動も停滞気味となり、ブロックセミナーは開催できず、国際図書館学セミナーについても再度の延期となった。また理事会や研究例会などの運営についてもインターネットを活用して実施するなど対策を講じてきた。このため収入の伸び悩みにもかかわらず、支出も同時に減少したため、単年度収支は黒字となっている。次年度についても、収支の均衡を図りつつ運用する努力を期待する。
- 4) 75周年記念事業は無事に実行された。その準備や当日の運営に携わった理事・各委員会委員・事務局など多くの会員の協力の成果である。限られた人員の中で成し遂げたことに監査委員としてもその努力を評価するとともに、感謝をしたい。
- 5) 研究グループへの助成金について、5つの研究グループから助成金の残金が戻入されている。

これら戻入は、コロナ期、研究グループの活動縮減の実際を会計面において公正に表したものが主であるが、今後、補助金が活きる活動の回復を期待する。

- 6) 奨励賞の出費に関して、一般会計からなされているが、関係の第2特会からの出費が相当であろう。第2特会の定期預金の一部を普通預金に変更しそこから支出することが望ましいであろう。
- 7) コロナ下の厳しい状況の中でもホームページのリニューアルに取り組み、大きな枠組みが構築できたことは評価できる。但し、コンテンツのアップデートの遅れなど、運用面においてまだまだ課題が残されている。今後さらなる向上を目指した体制作りも考えてもらいたい。またSNSを活用した積極的な活動も必要であろう。
- 8) 財政健全化方策の具体化に向けて20年夏に会員アンケート調査を実施し、さらに2月と3月には若手会員を対象とした座談会が開催された。ここで出された今後の日図研や『界』のあり方などについての有益な意見が生かされるように、若手会員の会の運営への参加を含めて積極的な取り組みが求められる。

以上、報告します。

2022年3月28日  
監事 志保田 務<sup>㊟</sup>  
前田 章夫<sup>㊟</sup>

## 2022年度事業計画(案)

### 〈研究活動〉

1. 『図書館界』74巻1～6号の編集・発行
  2. 第64回研究大会、図書館学セミナー、研究例会、特別研究例会の開催
  3. ブロックセミナーの開催
  4. 図書館・図書館学関係図書の出版
- ### 〈研究の奨励と会の拡大に関わる活動〉
5. 障害者会員への対応
  6. 図書館研究奨励賞の授与
  7. 国際交流の推進(上海市図書館学会との学術交流、論文の相互掲載、ほか)
  8. 会員・研究グループの研究活動への助成
  9. 留学生への『図書館界』の無料頒布
  10. 会員および購読者の拡大(オンライン交流会の実施など)
  11. ホームページの維持・更新
  12. 『界』オープンアクセス事業(J-STAGE)の継続

### 〈その他〉

13. その他本会の目的にそった事業

※第14回国際図書館学セミナーは新型コロナウイルス感染状況を考慮して2023年度に再々延期

## 2022年度一般会計予算(案)

## 《収 入》

項 目	21年度予算	22年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	2,736,173	2,845,354	
会 費	6,050,000	6,165,000	個人 5,000円×700人=350万円 学生 3,000円×10人=3万円 団体 8,500円×310=263.5万円
『界』売上げ	1,250,000	1,250,000	6,800円×180=122.4万円
広 告 料	220,000	220,000	
雑 収 入	5,000	5,000	寄附 カンパ ほか
利 息	10,000	10,000	
特別会計から繰入れ	0	400,000	2023-2024年度役員選挙
第3特別会計から繰入れ	2,200,000	588,225	第3特会残金(75周年記念事業)を繰入れ
合 計	12,471,173	11,483,579	▲987,594円

## 《支 出》

項 目	21年度予算	22年度予算	備 考
会 合 費	340,000	300,000	研究委員会15万円 編集委員会15万円
交 通 費	660,000	660,000	理事会30万円 評議員会30万円 特別研究例会 ほか
研 究 調 査 費	370,000	460,000	原稿料5万円 研究グループ助成41万円
研 究 助 成 費	1,000,000	700,000	研究大会・研究例会・セミナー50万円 ブロックセミナー・オンライン交流会20万円
雑 誌 刊 行 費	6,552,000	4,576,000	9,000円×440頁×1.1=435.6万円 J-STAGE 搭載委託費22万円
組 織 強 化 費	50,000	50,000	入会案内 チラシ 等
印 刷 費	50,000	50,000	『界』送り状 抜刷
国 際 交 流 費	30,000	30,000	国際図書館学セミナーは2023年度に 再々延期
役 員 選 挙 費	0	400,000	2023-2024年度役員選挙
通 信 費	750,000	750,000	『界』郵送料 切手代 電話代 ほか
払 込 料 負 担 費	10,000	10,000	業者払込料負担金 ほか
消 耗 品 費	100,000	100,000	『界』OPP 封筒 事務用封筒 プリンター用ラベル プリンター用インクボトル コピー用紙 ほか
事 務 局 費	2,300,000	1,800,000	人件費1,000円×6h×10日×12か月=72万円 交通費1,000円×10日×12か月=12万円 事務所借用料6.5万円×12=78万円 光熱水 費8.5万円 サーバルレンタル料2.5万円 ほか
第3特別会計へ繰出し	4,168		第3特会は2021年度で閉会
小 計	12,216,168	9,886,000	
予 備 費	255,005	1,597,579	手話通訳10万円 ほか
合 計	12,471,173	11,483,579	

## 2022年度特別会計予算(案)

## 《収 入》

項 目	21年度予算	22年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	16,700,008	17,847,611	
情報資源組織法	900,000	900,000	
図書館資料の目録と分類 (増訂第5版)	600,000	300,000	残部350
文化の朝は移動 図書館ひかりから	30,000	30,000	
日本図書館研究会の75年(仮題)	750,000	1,000,000	新刊
そ の 他	85,000	20,000	日本図書館学の奔流 ほか
合 計	19,065,008	20,097,611	

※利息は一般会計に一括して計上されている

## 《支 出》

項 目	21年度予算	22年度予算	備 考
出版編集会合費	20,000	20,000	
出版編集費	50,000	50,000	表紙デザイン料 ほか
出版物印刷費	1,500,000	2,250,000	日本図書館研究会の75年(仮題)150万円 塩見昇インタビュー記録75万円
通 信 費	200,000	200,000	刊行物送料 ほか
一般会計へ繰出し	0	400,000	2023-2024年度役員選挙
小 計	1,770,000	2,920,000	
予 備 費	17,295,008	17,177,611	
合 計	19,065,008	20,097,611	

## 2022年度第2特別会計予算(案)

## 【図書館研究奨励賞基金】

## 《収 入》

項 目	21年度予算	22年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	10,539,619	10,515,247	基金1,000万円
利 息	20,000	20,000	
合 計	10,559,619	10,535,247	

## 《支 出》

項 目	21年度予算	22年度予算	備 考
奨 励 賞 副 賞	100,000	100,000	
事 務 費	5,000	5,000	
予 備 費	10,454,619	10,430,247	
合 計	10,559,619	10,535,247	